



国際ハイウェイ への願い

Hope for the International Highway

前慶熙大副総長 尹 世 元



この度、国際ハイウェイ建設事業団の日韓トンネル名護屋調査斜坑の起工式に参加する光栄を頂き、本当に感無量です。

この国際ハイウェイ事業というのは、今から丁度5年前に文鮮明先生から提案されたものであります。罪深きこの世、争いあるこの世を清算し、平和な世界、善が勝つ世界を建設せんとする大理想の基に様々な事業を文鮮明先生がなしております。この国際ハイウェイ事業はこの中でも最も重大な事業と思います。文鮮明先生もこの事業に対し、非常に力を入れているのを私は知っており、この国際ハイウェイ事業が提案されて以来、日本の知識階級の皆様や産業界の皆様がこの事業に対して好意をはらい、今まで5年間、この梶栗事業団理事長をはじめ、佐々先生方が前進的に研究をなされている事を、海を隔てて韓国から常に見ておりました。今日、この美しい環境のもとに、歴史的な1986年10月1日、このような盛大な起工式が行われる事に対し、本当に感激を感じる次第です。

私は、この事業は必ず成功しなければならないと思いますし、韓国側としてもこの事業に力を注いで必ず成功させたいと思います。この事業の意義については、皆様御存じだと思いますが、この国際ハイウェイは、まず日本と韓国国民の新しい歴史の起点となるものであると思います。過去様々に、日本と韓国との歴史的な関りがありますが、日韓トンネルで両国を結ぶ高速路が開けるならば、日本と韓国との素晴らしい、明るい歴史がこれを起点として展開されるものと確信するものです。そればかりでなく、国際ハイウェイの大事業は、日本・韓国・中国を結び、その3国が共同して新しい東洋文化を創造する起点にもなるものと私は確信するものです。さらにこの事業は、東洋文化ばかりではなく、東洋と西洋を結び、その両文化を結んで新しい理想的な世界を建設する起点になるものと、私は確信するものです。

このような意味において、今日始まったばかりのこの斜坑建設が必ず成功し、これを基として日本と韓国の間には、そのトンネルがなるべく早く完成するように、私は常々神様に祈り念願している者です。皆様もこの事業に対して深くお考えになっていると思いますが、私なりにこの事業の意義を、この栄光ある意義を、この場をかりてお話しした次第でございます。

この光栄ある、1986年10月1日が歴史的な日になることを祈り、御挨拶にかえて終ります。

(1986年10月1日、名護屋調査斜坑起工式にて)